

# 核燃料中間貯蔵 調査始める

## 山口・上関 建設予定地の地層・地質

中国電力が山口県上関町で計画する使用済み核燃料の中間貯蔵施設をめぐる、同社は23日、建設予定地で地層や地質を調べるボーリング調査を始めた。活断層の有無を含め、立地に適しているかを検討するが、町民からは反発も出ている。

中国電は同町内で原発建設の準備工事を始めていたが、2011年の東京電力福島第一原発の事故後に中断。町からの

「新たな地域振興策」の要請を受け、中国電が提案したのが、原発から出る核燃料を一時保管する中間貯蔵施設だった。関西電力と共同で建設、利

用する計画だ。

昨年8月に町は建設に向けた「立地可能性調査」を受け入れており、その一環でボーリング調査が行われた。

「適地」との調査結果が出された場合、町が建設の是非を判断する。

(鈴木史、山野拓郎、三浦惇平)